

●旅の本質を追求する観光の振興と国際MICE都市への飛躍

「5000万人観光都市」を実現した京都観光は、「量の確保」と合わせて、「質の向上」を図り、「旅の本質」を堪能できる世界で一番のまちを目指し、「観光スタイルの質」と「観光都市としての質」の向上に取り組みます。また、京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際MICE都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～の実現に向けた取組を推進します。

『未来・京都観光振興計画2010⁺』の概要

いよいよ旅の本質へー7つのプロジェクト、動く。

計画の趣旨

「5000万人観光都市」を実現した京都において、新たな京都観光の姿と、それを実現するための戦略や施策を明らかにし、市民、観光関連業界、行政をはじめ、京都観光を支えるみんなが心をつなげて、京都観光の質を更に高めるための羅針盤とします。

計画の対象期間

平成22年から平成26年までの5年間とします。併せて中長期的視点を持ったものとします。

計画の指標

観光客の満足度・感動度、延べ宿泊数(宿泊客数×平均宿泊日数)、リピーター数、観光消費額、乗用車による入浴率、市民の観光に対する意識等を指標とします。

これらをはかる観光調査を新たに構築・実施します。

京都観光が目指す姿

いよいよ旅の本質へ
～世界が共感する観光都市～

～旅の本質とは～

人に出会い、風景に出会い、心打たれる出来事に出会い、・・・そして新たな自分自身に出会う。

旅を通して、気づき、学び、癒され、元気をもらい、成長し、人生が深く、豊かになる。

京都はこうした旅の本質を、より多くの方々に、誰が来ても、いつ来ても、思う存分堪能いただける、世界で一番のまちを目指します。そのために・・・

● 観光スタイルの質を高めます

- * じっくり滞在し、京都の奥深い魅力を五感で体感する観光
- * 環境にやさしい観光スタイル

● 観光都市としての質を高めます

- * 今ある魅力を守り育て、新たな魅力を創出
- * 観光客の不満を徹底的になくし、京都に来られた方に感動と満足
- * 市民が京都に誇りを持ち、魅力を満喫することによる観光客への温かいおもてなし

計画の主な構成

● 旅の本質を追求する7つのプロジェクト

1 「暮らすように旅する」プロジェクト【重点】

～滞在・宿泊型観光を推進します～

朝と夜の観光の推進、多様なニーズに対応する宿泊施設の充実、連泊を促進する取組

2 「歩いてこそ京都」プロジェクト【重点】

～環境にやさしい歩く観光を推進します～

歩いて楽しむための環境整備、公共交通の利便性向上、山紫水明の自然を歩く観光の推進

3 「市民の京都再発見」プロジェクト【重点】

～京都人を京都ファンに、京都の達人にします～

京都の子ども・学生が「京都人のたしなみ」を身に付ける仕組みづくり、市民が京都を知る仕組みづくり、市民と観光客がふれあえる場の創出

4 「心で“みる”京都」プロジェクト【重点】

～ほんものと「ふれあう観光」を推進します～

京都の文化や知恵、匠の技を心で“みる”観光の充実、京都の暮らしや日常生活を体験できる取組の推進、ほんものの魅力の保全・活用・創造

5 「観光客の不満をゼロに」プロジェクト

公共交通の利便性向上、観光案内の充実、ユニバーサルツーリズムや美しいまちづくりの推進、市民のおもてなしと観光客のマナー向上

6 「新たな京都ファン獲得」プロジェクト

家族連れ、若者・大学生、若い女性、ラグジュアリー層、ビジネス個人客など、新たな京都ファンを獲得

7 「京都の魅力うまく伝える」プロジェクト

情報発信ツールの整備・充実、戦略的プロモーションの実施

● 特性に応じたおもてなし戦略

以下の対象の特性に応じて戦略的なおもてなしを展開します。

- 1 修学旅行生
 - 2 熟年世代
 - 3 外国人観光客
 - 4 ビジネス団体客(国際会議・企業研修旅行参加者等)
- ⇒京都市MICE(マイス)戦略を策定

● 計画をしっかりと推進するために

観光庁分室・文化庁分室の誘致、京都観光を支える人的パワーの向上、観光客の安心・安全を守る体制の整備、計画マネジメント会議の設置、京都独自の観光調査の実施など

「京都市MICE戦略」の概要

MICE（マイス）とは・・・

M（ミーティング）

… 企業のミーティング等

I（インセンティブ）

… 企業が表彰や研修などの目的で実施する旅行（企業報奨・研修旅行）

C（コンベンション）

… 国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議等

E（イベント／エキジビション）

… 文化・スポーツイベント、展示会・見本市

(1) 策定の趣旨

世界各国・各都市において、経済効果や都市活力の向上、文化交流など、幅広い効果が期待できる「MICE」の誘致競争が激化している状況を踏まえ、本市においても、国際コンベンションの誘致に加え、企業研修旅行やイベントなどを含めた「MICE」全般の振興を図るため、平成22年3月、全国初の「京都市MICE戦略」を策定しました。

(2) 計画の概要

ア 京都におけるMICE振興の意義

京都ブランド・都市格の向上、市民生活の活性化、観光の質の向上、経済効果など

イ 戦略の目標

京都の都市特性を生かした、世界に冠たる「国際MICE都市」への飛躍

ウ 重点誘致対象

- ・ 京都の有する歴史的・文化的資源を生かしたミーティングやインセンティブ
- ・ 「大学のまち・京都」にふさわしい学術系コンベンション
- ・ 京都のまちづくりと調和するコンベンション

エ 施策の方向性

① 受入環境の整備

国立京都国際会館の拡充、岡崎地域の活用、京都ならではの魅力の活用、国際的なネットワークを有するホテルの誘致・充実 など

② 積極的な誘致施策の推進

マーケティングの強化、世界とのネットワークの構築 など

③ 市民参加によるMICEの振興

④ 戦略推進のための体制強化

MICE分野の人材育成、(財)京都文化交流コンベンションビューローの体制強化、京都市全庁を挙げた取組 など

【重点事業】

観光立国・日本 京都拠点プロジェクト：1,000 万円〔観光振興課〕

観光立国を押し進めるため、平成23年1月に観光庁と覚書に調印した共同プロジェクト「観光立国・日本 京都拠点プロジェクト」に掲げる事業等に取り組みます。

（事業内容）

ア 外国人観光客受入環境の充実

宿泊施設向けに、緊急対応のための多言語コールセンター（24時間対応）を開設し、実証実験を行います。

イ ラグジュアリー層を中心とする外国人観光客の誘致

平成24年以降の I L T M A s i a（富裕層向け旅行を扱う商談会）の京都誘致に向け、本年6月、上海で開催される同商談会に参加する旅行会社を京都に招へいし、観光関係者等との情報交換や観光資源視察などを行います。

ウ ICTを活用した口コミによるプロモーション事業

全世界で5億人の会員数を擁するフェイスブックなどのSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス=インターネットを活用したコミュニケーションサービス）を活用し、京都の観光情報の海外への発信を強化します。

観光案内標識アップグレード推進事業：5,000 万円〔観光企画課〕

平成22年度は、「歩く観光」を推進するため、現在の観光案内標識の在り方を抜本的に見直すとともに、アップグレード案の検討を行いました。また、観光客・市民の視点に立ったよりわかりやすい観光案内標識について、学識者や交通事業者等からなる「観光案内標識アップグレード検討委員会」を設置しました。今後は、平成23年度からの5箇年で市内の観光エリアの中から優先度の高いエリアを抽出し、今年度に策定する「観光案内標識アップグレード指針」に基づいた観光案内標識の整備を進めます。

なお、平成23年度は24年初頭に水族館がオープンする予定の梅小路エリアを対象エリアの一つとします。

京都らしいM I C E開催の支援：500 万円〔観光振興課〕

京都で開催される中小規模のコンベンション、一定規模以上のミーティング、インセンティブを対象に、「ほんまもんの京都」の一端に触れる機会を提供し、「京都らしさ」を演出するため、伝統産業や文化体験の実演者、芸舞妓等を会議場所などに派遣する支援制度を創設します。

【新規事業】

NHK大河ドラマ「平清盛」観光PR事業：1,300 万円〔観光振興課〕

NHK大河ドラマ「平清盛」の放映（平成24年1月から）に合わせ、京都市内の「平清盛」にまつわる史跡・名勝（六波羅密寺、祇王寺ほか）などの情報を、各種イベントにおける散策マップの配布やホームページ掲載により広く発信し、観光のPR等に取り組みます。

京都ユニバーサル観光ナビの充実：660 万円〔観光振興課〕

京都市では、高齢者や障害のある方など、誰もが快適に安心して京都観光を楽しめる受入環境を整備するため、民間団体等と連携し、ユニバーサルツーリズムの推進に取り組み、その一環として平成21年3月に開設したホームページ「京都ユニバーサル観光ナビ」において市内の観光モデル10コースとバリアフリー情報を発信しています。この「京都ユニバーサル観光ナビ」に新たに飲食店情報を加えるとともに、施設やトイレのバリアフリー情報を更に充実させ、ユニバーサルツーリズムの一層の推進を目指します。

〔事業概要〕

新たな飲食情報の発信サービスを開始するとともに、モデルコースの追加設定を行います。また、スマートフォン（※）への対応など、更なる機能強化を検討します。

※スマートフォン：音声通話以外に、インターネットへの接続、スケジュールの管理、メモ帳など、パソコン並みの多機能をもつ携帯電話

【継続事業】

京都観光オフィシャルサイト「京都観光 Navi」の運営：2,856 万円〔観光企画課〕

京都の観光情報をインターネット及び携帯端末により発信し、内外からの更なる観光客誘致を図ります。

京都観光 Navi <http://kanko.city.kyoto.lg.jp>

携帯端末対応版 <http://kanko.city.kyoto.lg.jp/mobile>

ニューツーリズム創出事業：350 万円〔観光企画課〕

観光客の「時期的な集中」、「場所的な集中」の緩和、界わい観光の振興、更には地域の活性化を図るため、地域団体等が実施する京都の隠れた観光資源の発掘に対する取組支援を行います。具体的には、事業の初期費用等への補助（2分の1以内）やアドバイザーの派遣、事業のPRをパッケージとしてサポートします。

「映画のまち・京都」にふさわしいロケ支援の充実・フィルムツーリズム：362 万円〔観光企画課〕

映画のまち・京都の魅力を、映画・映像を通じて発信することにより、映画文化の活性化と観光振興を図るため、ロケ支援の総合窓口「京都市フィルム・オフィス」において、ロケ地に関する情報の提供などを行います。

さらに、「映画のまち・京都」のPR策のひとつとして、京都の映画文化や歴史の紹介、これまでに京都で撮影された映画やドラマのロケ地情報をホームページで発信するなど、フィルムツーリズムを展開、推進します。

京都一周トレイルの運営：310 万円〔観光企画課〕

自然や歴史、文化に触れながら京都の山々を散策する「京都一周トレイル」を運営します。

東山コース、北山東部コース、北山西部コース、西山コース、平成22年3月に開設した京北コースに関する地図の作成・販売や道標等の維持管理を行うとともに、国内外の方々に広く利用いただけるよう、魅力の向上や広報の充実に努めます。

（5種類のガイドマップコースと写真）



市民による京都の魅力再発見事業：450 万円〔観光企画課〕

観光客へのおもてなし意識を高めるため、市民の皆様が京都を知り、京都の魅力に気づき、理解を深めていただく以下の取組を実施します。

① 市民による京都の魅力体験の仕組みづくり

平成22年度は、市内の小学校に通う6年生を対象に、冬休み期間中（平成22年12月22日～23年1月10日）、6つの世界文化遺産を見学できる「子どもたちの京都再発見事業」を実施するとともに、京都の魅力に接する機会の少ない市民（18歳以上）を対象とした京都の歴史・文化に関する講座・まち歩きを実施しました。23年度も市民の皆様が京都の魅力を体験していただける事業を実施します。

② 京都観光の意義やおもてなしの心を学ぶための京都観光副読本の作成

次代を担う子どもたちに、京都における観光振興の意義や効果、おもてなしの心や実践方法、観光という仕事などについて理解を深めてもらうため、小学校高学年を対象とする副読本を作成します。

③ 京都観光サポーター制度の構築

海外での京都ブランドの発信に重点を置き、観光都市としての質の向上を目指すため、新たに「京都おもてなし大使」「京都国際観光大使」「京都名誉観光大使」を創設します。さらに、地域で活動されているボランティア団体等をネットワーク化するなど、あらゆる市民がそれぞれの地域で京都の観光振興に寄与できるよう、観光ボランティアの裾野を広げます。



（京都再発見カード）

京都観光総合調査の実施：1,100万円〔観光企画課・観光振興課〕

観光庁が定めた全国統一共通基準に基づく観光入込客統計・観光消費額統計及び質の向上を目指す京都観光の現在の「質」をはかる満足度調査、並びに外国人観光客の動向調査を併せて行う「京都観光総合調査」を引き続き実施します。

京都総合観光案内所の運営：6,574万円〔観光企画課〕

我が国を代表する観光都市・京都のおもてなし環境を一層向上させるため、平成22年3月に府市合同で開設した京都総合観光案内所（愛称：京なび）を運営します。

ワンストップで京都市を含む府内全域の観光案内、情報発信を行うとともに、英語はもちろん、中国語、韓国・朝鮮語等の多言語に対応します。

（京都総合観光案内所の概要）

所在地：JR京都駅ビル2階

開所時間：8：30～19：00（年中無休）

運営主体：京都総合観光案内所運営協議会



京なび

（写真：京都総合観光案内所，下は愛称ロゴマーク）

京都市宇多野ユースホステルの運営：1億1,150万円〔観光企画課〕

平成20年7月に全面リニューアルした宇多野ユースホステルは、木のぬくもりを感じる、明るく開放的な和風建築として、「世界で最も居心地のよいユースホステル2009」に選ばれました。

温かいおもてなしはもとより、京都ならではの体験・学習・交流事業の実施を通じて、京都の魅力を世界に発信するとともに、国内外からの利用者の更なる満足度の向上を目指します。



（写真：京都市宇多野ユースホステル）

※ 宇多野ユースホステル http://yh-kyoto.or.jp/utano/index_j.html
TEL 075-462-2288

京都まちなか・えきなか観光案内所の運営：80万円〔観光企画課〕

国内外からの観光客をおもてなしの心で温かく迎え、安心して快適に京都観光を楽しんでいただけるよう、市内すべてのセブン・イレブン、スターバックス コーヒー（※）の全面的な協力を得て、「京都まちなか観光案内所」（平成19年10月開設）を、公共交通機関（京都市交通局、JR西日本、京阪電鉄、近鉄電車、京福電鉄、叡山電鉄、嵯峨野観光鉄道）の協力を得て、市内10箇所（京都市交通局 太秦天神川駅・京都駅・北大路駅・烏丸御池駅、JR京都駅、京阪電鉄三条駅、近鉄京都駅、京福電鉄嵐山駅、叡山電鉄出町柳駅、嵯峨野観光鉄道トロッコ嵯峨駅）で「京都えきなか観光案内所」（平成21年10月開設）を運営し、京都を訪れる観光客に周辺の観光案内や交通案内を行います。

※ 平成23年1月末現在 141店舗（セブン・イレブン125店舗、スターバックス コーヒー16店舗）

観光案内標識の充実整備：300万円〔観光企画課〕

観光客の利便性の向上を図るため、観光案内標識の補修、整備を行い、「歩いて楽しい観光」を推進します。

〔観光案内標識の設置数（平成23年1月現在）〕

観光案内図板260基、案内標識228基、名所説明立札（駒札）485基、現在地表示板1,257枚

海外の市場ニーズに対応した京都観光ウェブサイトの構築：900 万円〔観光振興課〕

海外各国・地域の市場ニーズに対応した観光情報の発信を行うため、既存の外国語版ホームページを再編・統合し、既に開設している英語、フランス語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語に加え、平成23年度はスペイン語、ドイツ語、イタリア語のウェブサイト을新たに開設することにより、外国人観光客の更なる誘致につなげます。

Kyoto Winter Special：300 万円〔観光振興課〕

京都市では、春や秋の観光シーズンにおける観光客の集中が顕著なため、平成19年度以降、オフシーズンである冬の魅力をPRし、外国人観光客を誘致するための特別キャンペーン「Kyoto Winter Special」を実施してきました。

近年、インターネットを利用した旅行商品の販売が急激に拡大していることを受け、平成23年度においても、インターネットを活用した外国人観光客誘致キャンペーンを世界的規模で展開します。

京都・花灯路事業：4,700 万円〔観光振興課〕

宿泊型・通年型観光のシンボル事業として、京都ならではの寺院・神社をはじめとする歴史的な文化遺産やまち並みなどを日本情緒豊かな陰影のある露地行灯の灯りと花を用いることにより、思わず歩きたくなる路、華やきのある路を演出します。平成14年度から東山地域で、平成17年度からは、嵯峨・嵐山地域においても実施しています。

●平成22年度「京都・花灯路」事業

【嵐山花灯路2010】

開催時期 平成22年12月10日～19日（10日間）

会場 嵯峨・嵐山地域（渡月橋～天龍寺～竹林の小径など）

【東山花灯路2011】

開催時期 平成23年3月12日～14日（3日間）

会場 東山地域（青蓮院～円山公園～清水寺）

※東日本大震災で被害を受けられた地域の一日も早い復興を願い、また犠牲となられた方への哀悼の気持ちを込め、3月14日をもって東山花灯路を中止し、3月15日から21日までは「京都・東山祈りの灯り」を開催。復興を願うメッセージや義援金を募集しました。

●平成23年度「京都・花灯路」事業

【嵐山花灯路2011】

開催時期 平成23年12月9日～18日（10日間）

会場 嵯峨・嵐山地域（渡月橋～天龍寺～竹林の小径など）

【東山花灯路2012】

開催時期 平成24年3月10日～20日（11日間）

会場 東山地域（青蓮院～円山公園～清水寺）



（写真：京都・東山花灯路）

京の七夕事業：5,000万円〔観光振興課〕

「一年に一度願いごとをする」という七夕にちなんで、「願い」をテーマに「京の七夕」事業を開催します。

（平成23年度実施内容）

（1） 時期

平成23年8月6日(土)～15日(月)

（2） 会場及び内容

- 堀川会場（御池通～今出川通）
 - ・堀川遊歩道（押小路～一条戻り橋）、元離宮二条城、西陣織会館等で竹と光の演出で作る「光の天の川」やアート作品の展示などを実施
- 鴨川会場（御池通～四条通）
- 寺院、神社、門前会等
 - ・特別拝観、七夕装飾、和装優待などを実施
- その他、商店街等での七夕イベント、七夕飾りなど



（堀川遊歩道「光の天の川」）

体験型観光の推進『京都「千年の心得」(Wisdom of Kyoto)』：570万円〔観光振興課〕

京都の貴重な財産である「伝統」や「人材」を最大限に活用し、千年を超える歴史に培われ、今も日常に根付いた京都の奥深い魅力を体験型コンテンツとして、国内外に発信します。

「京の極み」（奥深い京都の魅力を堪能したい方、リピーター、長期滞在者向け）では、観光関係の民間企業と連携し、上質の「ほんまもん」の京都の魅力を堪能していただけるような旅行商品を生み出します。

「京のたしなみ」（一般観光客向け）では、いつでも気軽に文化体験ができるよう、京都の「文化体験プログラム」をまとめ、「京のたしなみ帖」として発信します。

岡崎桜回廊十石舟めぐり：－〔観光振興課〕

2艘の船を岡崎の琵琶湖疏水で運航し、春爛漫、桜の下で新たな観光資源を創出します。

- ・運航期間：平成23年3月26日～5月8日
- ・運航航路：南禅寺舟溜り乗船場（琵琶湖疏水記念館前）
～夷川ダム 往復約3km
- ・所要時間：約25分



（写真：岡崎桜回廊十石舟めぐり）

観光シティセールスの展開：638万円〔観光振興課〕

マスメディアや旅行エージェント、修学旅行関係機関への最新の観光情報等の提供活動を通じて、修学旅行をはじめとする首都圏からの観光誘客及び京都への旅行商品の造成を図ります。また、京都館観光PR事業と連動して、京都のPRを行います。

海外観光宣伝事業：1,163 万円〔観光振興課〕

●海外観光宣伝事業

観光関連団体・企業等で「京都国際観光客誘致推進協議会」を組織し、本市の重点市場であるアメリカ、台湾、韓国、中国、オーストラリア、欧州等への海外ミッション団の派遣や国際旅行見本市への出展を行うなど、外国人観光誘客事業を実施します。

●海外有力プレス関係者等招請事業

アジアや欧米諸国等から京都への一層の誘客を図るため、現地で大きな影響力を持つ有力プレス関係者を招請し、京都を取材する機会を提供することによって、雑誌への記事掲載やテレビ放映等を通じ、京都の魅力をPRします。

(写真：国際旅行博への出展)



海外情報発信・収集拠点の運営：1,860 万円〔観光振興課〕

アメリカ、台湾、韓国、中国、オーストラリア、欧州に情報拠点を設置し、京都観光のPR活動等を継続的に行うとともに、現地の旅行動向等の情報を収集することにより、入洛外国人観光客数の増加を図ります。

MICE誘致の推進：7,747 万円〔観光振興課〕

「京都市 MICE 戦略」に基づき、「財団法人京都文化交流コンベンションビューロー」を中心として、コンベンションの誘致、賓客の招へい等を促進するため、広報・宣伝活動や情報の収集・提供などを行います。

また、大規模国際会議の誘致に関する都市間競争力を向上させるため、会議開催に係る助成金制度を運用し、戦略的な誘致活動に取り組むとともに、レセプションの開催やオプションツアーの実施等に対する支援を行います。

●京都文化交流コンベンションビューロー運営

「財団法人京都文化交流コンベンションビューロー」を中心として、コンベンションの誘致、賓客の招へい等を促進し、広報・宣伝活動や情報の収集・提供、会議準備資金の融資などを行います。

●大規模国際コンベンション誘致支援助成金・開催支援助成金交付事業

国際会議の開催に係る助成金制度を運用し、戦略的な誘致活動を行います。

[実施方法]

市内に副市長をトップとする審査会を設置し、助成金交付対象会議及び金額を決定します。

[助成対象となる会議の条件]

会議参加者が概ね 500 名以上及び参加国数が 3 箇国（日本を含む）以上であり、海外からの参加者数が 100 名以上の国際的な会議、又は審査会が特に誘致の必要性を認める会議を対象とします。

[助成金の限度額]

原則として、会議の規模等に応じて金額を決定します（上限：〔誘致〕100 万円 〔開催〕300 万円）。

●コンベンション開催支援事業

レセプションの開催やオプションツアーの実施等を支援することにより、京都の魅力を世界に発信します。

○第 8 回 STS フォーラム（科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム）

- ・日 時：平成 23 年 10 月 2～4 日 ・参加者数見込み：約 1,000 名（うち海外約 700 名）
- ・会 場：国立京都国際会館